社会医療法人 清風会
法人だより

清風

冬号
2024年1月1日 vol.72



▲大江山（高井神楽団）

社会医療法人 清風会

五日市記念病院・廿日市記念病院は
（公財）日本医療機能評価機構の認定病院です

2024年
年頭のご挨拶



社会医療法人　清風会　理事長（五日市記念病院　院長）　向田（むかだ） 一敏

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、多方面でのご支援、ご指導、ご協力を賜り、誠に有難うございました。

本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年５月に新型コロナ感染症の国内対策が緩和されましたが、それ以降も大規模なクラスターの発生はなく、昨年末には４年ぶりに法人忘年会を開催できました。300人を超える職員が参加し、久々に直接的に親睦を深めることが出来ました。その後も参加職員に感染者は出ず、一安心しているところです。しかしながら、インフルエンザや新型コロナの派生株の脅威が依然として続く中、特に医療・介護の領域では、基本的な感染対策を遵守し、引き続き気を引き締めていく必要があります。

新型コロナ感染症がやっと落ち着いてきたかと思いきや、その一方で、昨年末以降、政界では“裏金疑惑の大クラスター”が発生しています。政治の舵取りが不安な中、今春の“医師の働き方改革”の開始や、職員の処遇改善には不十分な“診療報酬のトリプル改定”、国民の混乱を更に増幅させる“マイナ保険証への完全移行”など、大きな問題を孕んだ変革が行われようとしており、今年も波乱に満ちた1年が予想されます。そのような中で、**当法人の第７期では、①世代交代により更新された法人組織体制の安定化を図り、維持すること、②前期の目標での未達成事項を達成に向け努力すること（特に、SCUの再開、五日市記念病院訪問看護ステーション、訪問診療の拡充など）、③両院間の診療、機器使用に関して協同的、効率的で、無駄を省いた運営を再検討する、などの基本方針に基づき運営して参ります。**

社会医療法人清風会第7期上半期（2023年7月～2023年12月）を振り返って

①法人全体

- 前号の本誌で紹介しましたが、昨年9月末をもちまして、前理事長で清風会相談役であった梶原四郎医師は常勤医師を退職し、非常勤医師として両院の外来診療に従事しています。前廿日市記念病院院長である浅野拓医師は、廿日市記念病院相談役として、外来・病棟で診療を継続しています。
- 一昨年２月、五日市記念病院と廿日市記念病院双方の電子カルテを更新し、その後、両院の機能連携を一層深めるために両院のデータベースの統合を行いました。運用しながら修正を重ね、両院間の転院時や検査紹介時の診療情報のやりとりなどが円滑、効率的に行えるようになりました。
- 昨年11月、看護企画室に斎原隆文看護師が入職しました。長年、看護管理や看護教育面で活躍された経験と実績があります。この１月から法人看護企画室は【キャリア支援室】と改名し、看護師の卒後教育や法人看護部の体制充実を中心に業務いたします。

②五日市記念病院

- 整形外科の新設：昨年10月中旬、整形外科を新設し、大腿骨近位部骨折などに対する手術治療を含め、外来、入院診療を開始しました。担当は、川西啓生医師（常勤）、井上博幸医師（非常勤）です。12月には、第1例目の大腿骨人工骨頭挿入術が問題なく行われました。現在、種々の設備を整備中です。
- 8月末、糖尿病内科医の齋藤雅之医師が入職し、糖尿病専門診療を開始しました。
- 11月1日　病床変更（一般・急性期病床　72床⇒80床、地域包括ケア病床　28床⇒27床、回復期リハビリテーション病床　80床⇒73床）に伴い、病棟の移動を行いました。整形外科、内科、外科救急の受け入れを円滑にするための変更です。その結果、11月、12月の繁忙期の急性期病床運用に改善が得られています。
- 昨年2月に開設した【五日市記念病院訪問看護ステーション】は、看護師配置などで苦労しながらも、着実に利用者数が増えています。患者さんの評判も良いとのことで、今後も拡充を進めてまいります。それに併せて、昨年11月からは訪問診療も開始しました。
- 9月末から約2か月をかけて本館西側の外壁塗装や防水工事を行いました。残った東側のお化粧直しは、来年2月から再開する予定で、4月には33歳の美貌をご披露できると思います。

③廿日市記念病院

- 昨年7月院長が交代し、茶木隆寛院長を中心として運営を開始しました。先に交代していた高橋看護部長、新山事務部長と協力しながら舵取りをしています。
- 1991年の五日市記念病院開設時から一緒に病院、法人を造ってきたひとりである香川美香看護師（療養病棟看護科長兼看護部長補佐）が昨年8月末で退職しました。まだまだ活躍して欲しかったところであり、誠に残念です。32年の長きに亘り、ご苦労様でした。

社会医療法人清風会の2024年の方向性

①法人全体

- 【医師の働き方改革】への対応：4月から日本全国で開始される医師の働き方改革への対応は、開始前の準備も然ることながら、開始後に日本の医療が如何なることになるのか、大きな不安と懸念を抱えた変革です。五日市記念病院は宿直許可を、そして廿日市記念病院は宿日直許可を既に得ていますが、最も問題であるのは運用が始まってから予測通りに事が運ぶかどうかというところにあると考えています。引き続き、鋭意取り組む所存です。
- 法人技術部リハビリ技術科の組織を再編し、【キャリア支援室】を新設して、卒後教育、人材育成に更に注力する予定です。

②五日市記念病院

- SCU（脳卒中ケアユニット）の再開：一昨年、コロナ病床対応のため中断したSCUを1月から再開しました。中断の間も脳卒中入院診療の質を担保して運営してきましたが、今後は一層集約的、効率的に急性期脳卒中診療が行えると考えます。
- 看護部長の交代：1月から原田美幸看護科長（3階急性期病棟）が、五日市記念病院看護部長に就任しました。五日市記念病院看護部長と兼務していた村中統括看護部長は、両院の看護部管理を担当します。
- 内科系診療の充実：急増が予想される高齢者救急への対応として、4月から新たに総合内科、消化器内科、循環器内科、神経内科の医師を増員する計画をしており、内科系診療の充実を図っていきます。
- 訪問診療、訪問看護等の在宅医療の拡充：今後急増すると予想される在宅医療について、スタッフを充実させながら訪問診療・訪問看護を中心にリハビリ・栄養・薬剤を含め拡充していきます。

③廿日市記念病院

- 新規MRIの導入：3月1日の稼働予定で、入れ替え工事をしています。AIを搭載した新しいMRIであり、廿日市記念病院の外来・入院患者さんはもとより、脳ドックや五日市記念病院の外来患者さんにおいても利用していく予定です。
- 緩和ケアの充実：1月に緩和ケア病棟に笹川裕美看護科長が就任しました。広島西医療圏唯一の緩和ケア病棟として、さらなる充実を図っていきます。

医師の働き方改革について

さて、この4月から先に少し触れた【医師の働き方改革】が日本全国で実施されます。政界での多々の不正やちぐはぐな政策により、“日本丸”の先行きに暗雲が立ち込めていることは重大なことですが、それは別としても、今後の日本の医療を考えていく上で、この【医師の働き方改革】の成り行きは非常に重要であると考えています。

勤務医を雇用している医療機関では、それについての雑多な準備に追われていることと思いますが、特に時間外の救急診療、緊急手術などの業務に対応している医療機関では、通常勤務と時間外勤務のシフトや大学病院などからの支援体制がどのようになるのか不安がつきないところです。これまでは、医師の倫理観や責任感に頼って、救急診療や緊急手術などでの時間外勤務時間が非常に長いことがあることが分かっていても、“そういう仕事だから仕方ない”と、行政や管理者側も余り目を向けようとせず、対策を講じてこなかったと思いますし、医師自身も時間管理がルーズであったようにも感じます。しかしこれからは、基本である“時間外労働のA水準”では、時間外労働が960時間/年以内に制限されるため、日本全国の医療においての時間外診療の総量（総時間）が制限されることになります。

一方、先日開催された広島市の救急対応病院の会議において、救急要請、搬送件数は年々増加していること、今後も高齢化に伴って救急搬送件数は増加する見込みであるとの予測データが示されました。令和4年の救急搬送総件数（57,700人）の約90%を二次医療機関が収容・対応していますが、その重症度の内訳をみると軽症患者（入院を必要としない）が約44%を占め、その比率は年々増加しているとのことです。その一方で、働き方改革の実施により医師の確保が困難になるなどの理由で、今春以降の輪番担当の二次医療機関数が減少する事態が発生しています。

以上より、今春以降の夜間・休日の時間外診療体制は、広島市域のみならず全県、全国的に混乱、窮迫してくる可能性があります。もしも再度、新興感染症が蔓延するような事態が発生すると、日本の医療は破綻に至る可能性もあると思います。

これを回避するためには、軽症者への対策が肝要と思います。具体的には、地域医師会がリーダーシップを執り、①診療所が当番制で軽症患者の準夜帯診療を担う、②診療所と地域の二次医療機関との連携体制を組織的に構築し、二次・三次医療機関による後方支援を確実にする、③地域医師会員が二次医療機関へ準夜帯（繁忙時間帯）のみでも出務し、診療協力体制をとる、など、各地域で救急・時間外軽症患者への対応法を早急に検討し、実施に移す必要性を感じます。

更に、医療機関へ受診する前の電話相談体制（受診前トリアージ）を充実することで、時間外の適正な受診を支援する方策もとる必要があります。広島では、既に2019年から『救急相談センター広島広域都市圏【#7119】』が運用されていますが、その認知率や利用率はまだ低いことから住民に対する地域ぐるみで広報活動を進めることや専用電話回線の増設、相談員の充実やトリアージ能力向上のための研修を行政がしっかりと行う必要があると思います。

当法人は、1991年の五日市記念病院開設時から、“救急は、医療の原点”との考えで、十分とはいえませんが、救急・時間外医療に取り組んできました。今回の“働き方改革”が実施されて以降の救急・時間外医療が、広島市域でいかなる状況になるのか予測できませんが、当法人としては、これまで通りの方針を変えずに、全職員で協力しながら臨みたいと考えます。

廿日市記念病院

明けまして おめでとうございます



廿日市記念病院 院長　**茶木 隆寛**

昨年7月に廿日市記念病院の院長となり、初めての新年を迎えます。院長としての業務をこなせているか不安な点はありますが、日々努力はしております。職員の皆さんには大変御迷惑をかけていることと思いますが、本年もよろしくお願いいたします。

また佐伯地区医師会を始め、地域の医療関係者の皆様とは色々な会合に出席をさせて頂き、顔を知って頂くべく努力をしておりますが、努力不足で申し訳ございません。知らないぞと言われる方が多いと思います。本年も色々なところに顔を出して、皆様に知って頂き、当院を利用して頂けるように努力して参ります。

年明けには佐伯地区医師会の新年互礼会に出席させて頂こうと思っております。ご挨拶をさせて頂ければと考えております。ただし、この『清風』が完成して配らせて頂く方が後になるかもしれません。あしからず。

昨年は年明け早々に、日本医療機能評価機構の病院機能評価の更新審査を受審し、無事再認定を受けました。ほぼ全部署について高評価を頂き、今後も引き続き安全で信頼される医療を続けてゆかなければと考えております。関係職員のみんなには大変努力をして頂き謝意を表したいと思います。2023年5月に、脳神経外科の國吉先生が入職しました。主に回復期リハビリ病棟を担当しています。佐伯地区医師会の皆様にもお見知りおきをお願いいたします。

この冬はコロナは少し落ち着き、反対にインフルエンザが流行しています。最近2－3年が嘘のようです。しかし今後どうなってゆくかは不確実であり、感染症に対する注意と備えは続けてゆかなければならないのでしょう。コロナをインフルエンザと同様に扱うことが出来る日は来るのでしょうか。

今年は診療報酬改定の年でもあり、今後の病院経営に関しても大きな変化が起こるものと考えております。診療報酬としては全体に下がることが予想され、経営は更に難しくなりそうです。昨今の物価上昇は、電気代・水道代・ガス代・灯油代等々で経営を圧迫してきます。診療報酬しか収入源のない病院は、その収入源が減ると大変困ることとなります。愚痴ばかり言っていても始まりませんので、色々と工夫をしながら、患者さんに迷惑をかけない工夫をしてゆこうと頭を悩ませています。

先日、テレビでもおなじみの森本久美子さんに“AYA世代のがんサバイバーが医療者に伝えたいこと”という内容で院内研修会をして頂きました。医学部卒業から30年以上が経過し、カビの生えそうな医者ですが、大変心に響く内容でした。元気一杯の森本久美子さんのお話だからこその説得力がありました。改めて色々と考えさせられました。当院には緩和病棟がありますが、癌患者さんだけではなく、患者さん全員の不安な気持ちというものを改めて痛感しました。

本年も引き続き、回復期病棟・療養病棟・緩和病棟で地域に必要とされる医療を続けてゆこうと考えております。



退職を迎えて

社会医療法人 清風会 前理事長　**梶原 四郎**



はじめに

2020年10月の世代交代（理事長交代）から早３年が過ぎました。理事長を退任後は２年間の法人顧問、１年間の法人相談役として、3年間の向田理事長を筆頭とする法人運営を見守ってきましたが、創業者として法人を任せるに足る状況と判断をし、2023年９月末を以って退職をしました。

40才にして病院開設を決意し、44才の時に五日市記念病院を開設してから32年余が経過し、後期高齢者の医療保険証を持つ年齢に達しました。

世代交代までの経緯は2021年1月号の「清風」で既に述べましたが、退職に際して病院創業の目的をもう少し詳しく述べてみたいと思います。

開設当時の病院

1）病院施設

１病床当４㎡で両室間の廊下幅は1.8mであり、多床室ではベット間はスタッフがやっと通れる位のスペースしかなく、夜間は空調を行わない状態で入院患者にあせもが発生したりしていました。

2）医師の業務

24時間365日の主治医責任性で、受け持ち患者状態により何時呼び出し電話があるか分からず、状態の悪い受け持ち患者がいると電話の音にビクつき、自宅で当直をしているかのような勤務でした。

3）看護師の業務

病棟ではほとんどの病院が均等三交替制であり、業務は看護のみならず薬剤管理など種々の雑用に追われ、そのためか家政婦会などからの多くの付添人を受け入れて看護もどきの作業を担って貰っていました。

外来の救急担当は当直として、所定勤務時間外で夜間も働いていました。

4）薬剤師の業務

「薬局」が仕事場であり、処方箋に従って調剤をすることが主であり、病棟の患者サイドへ赴くことはほとんどありませんでした。

5）リハビリテーション

リハビリは医療の付録的な存在で、多くの病院ではリハビリスタッフ以外の職員がその役目を担っており、リハビリ室も無いかあっても狭い空間しかありませんでした。加えて、週休２日とやらで土日にはリハビリを行っていませんでした。

6）給食業務

プラスチックやアルミの器を使用し、職員の勤務時間に合わせた食事時間（夕食は午後４時半）となっていました。

7）その他

・中材、手術室管理は看護師

・ケースワーカー不在

・保育施設がない

目指した病院

医師になって勤務が長くなるにつれて当時の病院のあり方に疑問を感じるようになり、疑問のない病院造りを目指して運営をして来ました。

1）老健施設基準に合わせた施設と24時間の空調

病院の施設基準を上回る老健施設基準（１病床当８㎡で両室間の廊下幅は2.8m）としました。同時に24時間の空調としました。

2）ワークライフバランスの導入

医師の業務は時間外の最後の看取りを当直医がすることにし、当直や拘束以外の日はフリーとし、有給休暇を有効に取るような勤務体制を奨励しました。

3）看護業務の改善

半準夜勤と12時間の夜勤を基にした**変則３交替制**の導入（現在は２交替制になっており、夜間16時間は改める必要がある）と、家政婦会などからの付添人を排除し、**看護部介護科**を組織して介護福祉士を雇用しました。

また、当初から夜間の救急対応は、当直制を廃して夜間勤務体制としました。

4）臨床薬剤業務

法人全体の薬剤管理を薬剤師中心とし、調剤室（薬局の呼称を改めた）での仕事だけでは無く、看護師に代わって薬剤師が患者に直接接する**臨床薬剤業務を**導入しました。

5）24時間、365日のリハビリテーション

脳血管障害を中心とする病院に於いては早期に継続したリハビリが必要であり、反対はありましたが常に施行出来るようにしました。

近い将来には病棟での夜間のリハビリにも挑戦をしてほしいと思っています。

6）給食業務と食器の改善

重たい、割れ易い等の反対はありましたが、家庭で食べる食事に近い状態とするために食器は全て陶器にし、食事時間食事時間も夕食は午後6時からにしました。

加えて、管理栄養士が直接患者に接する**臨床栄養管理業務**の導入と、多くは調理師と管理栄養士を目指す栄養士による給食業務としました。

7）その他

・中材、手術室管理は臨床工学技士を中心にしました。

・当初からケースワーカーを採用し、現在の連携室へと繋がっています。

・当初から夜間勤務の職員のための24時間保育を行い、継続しています。

おわりに

医療は日進月歩であり、社会も変化して行きます。法人の理念である**「社会に望まれる医療の実践」**を守りつつ、社会の変化に対応して行かねばなりません。既存を変えることを恐れず、社会貢献が出来る**「社会医療法人　清風会」**であり続けて欲しいと願っています。

入職のご挨拶



五日市記念病院 整形外科　川西 啓生

令和5年10月より勤務させて頂いております整形外科の川西啓生（かわにし よしたか）と申します。

私は、藤田医科大学を卒業し、JR広島病院での2年間の研修期間を経て、広島大学整形外科学教室に入局させて頂きました。広島大学病院の他、広島市民病院、松山市民病院、安芸太田病院、たかの橋中央病院などで整形外科診療に携わり多くを学ばせて頂きました。

地域の皆様のお役に立てるよう、邁進してまいります。まだまだ若輩者ではありますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

当院では外来や入院されている患者さんの整形外科的な疾患につきまして、診療させて頂きます。丁寧な診察ときちんとした病状の説明を心掛け、専門用語を極力排し、患者さんにご理解して頂けるように努めています。

「痛みが続く」。「以前できていたことが出来なくなった」。不安でつらいと感じられる事と思います。その不安やつらさを笑顔に変えていけるよう、日々努めてまいります。

皆様を“元気に！”そして“笑顔に！”それが、私のモットーです。

患者さんの御希望にこたえられるように良質の医療を提供するよう心がけています。皆様に信頼して頂ける医療を目指して、精進していく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に私が広島大学大学院で行った研究について少し紹介をさせて頂き、着任のご挨拶とさせて頂きます。

研究テーマは「分泌型マイクロRNAによる血管新生を基軸とした運動器損傷の新たな治療戦略」でした。

血管新生等への関与が明らかにされているmiRNA-210に注目し、膝関節内投与による無血管領域の半月板損傷に対する治癒促進効果を検討しました。

結果として分かった事は、半月板細胞からの2型コラーゲンの産生が促進され、滑膜細胞からの血管新生に関与するVEGF・FGF2 の発現を促進する事で損傷した無血管領域半月板の修復が促進されるという事でした。血管新生促進作用を有するmicroRNAにより、様々な運動器損傷において良好な治療効果が得る事が分かり、また、低酸素刺激を加えた末梢血単核球から分泌されたmicroRNAは細胞増殖を亢進させる事も分かりました。細胞から分泌された、血管新生能を有するmicroRNAを用いれば、患者自身の細胞から得る事もできる可能性があり、新たな運動器治療法へと発展する可能性を秘めていると思われました。

研究成果は「Arthritis Research & Therapy」へ掲載され、その発表後に、注目論文の一つとして、「Nature Reviews Rheumatology」に掲載され紹介して頂きました。

広島大学整形外科学教室では、日本をリードする最先端の研究が行われています。



Arthritis Res Ther. 2014; 16(6): 488.

「Intra-articular injection of synthetic microRNA-210 accelerates avascular meniscal healing in rat medial meniscal injured model」



五日市記念病院・廿日市記念病院 整形外科　井上 博幸

2023年10月16日より五日市記念病院に入職した非常勤医の井上博幸と申します。

私は昭和54年に愛知医科大学を卒業し、実家が外科を開業していたこともあり、広島大学附属病院（旧第2外科）に入局し消化器外科医として4年間勤務いたしましたが、整形外科に惹かれるものがあり昭和58年同大学病院整形外科に再入局しました。その後、大学病院で1年間、JA吉田総合病院で3年間勤務後、昭和62年4月より県立広島病院整形外科で32年間、骨折、関節外科、一般整形外科手術を数多く担当させていただきました。また、令和2年4月よりたかの橋中央病院で主に外来診療において、慢性疾患、変性疾患、骨粗鬆症などの診療、手術援助などに携わってまいりました。

五日市記念病院に入職後は週3日の外来診療、手術援助など勤務させていただきます。

これからさらに高齢化が進む中で、一般整形外科疾患だけでなく、立つ、歩くといった基本的な機能（移動機能）の低下を来した状態であるロコモティブシンドロームを早期発見し、介護が必要となるリスクを回避できるように運動器のリハビリテーションや骨粗鬆症の治療、二次性骨折の予防などに取り組んでいきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

五日市TOPICS

救急ワークステーションについて

看護部　村上 志穂実

当院では、2023年2月より救急ワークステーションを行っています。

救急ワークステーションと聞いただけでは、活動内容が想像しにくいのではないでしょうか？今回は、当院で行っている救急ワークステーションについて紹介したいと思います。

「広島市消防局の救急隊が、院内で実際に静脈確保や救急対応などを行いながら待機し、救急車の出動要請があった時には、当院の医師、もしくは看護師が救急車へ同乗し、現場へ急行し、患者さんの救護を行う。」

これが、救急ワークステーションの一連の流れです。

救急ワークステーションを行う目的は、

・救急搬送された患者さんが、病院に到着してからどのように検査や治療が行われていくのか実際に見学することで、搬送時に必要な情報を病院へスムーズに連絡することが出来る。
・救急隊員の技術の向上
・救急隊と、看護師がお互いの仕事内容を知ることで、チームワークが生まれ患者さんの円滑な搬送につなげることが出来る。

救急隊の方々の仕事内容については、救護者を安全にスムーズに搬送することという認識はありましたが、実際に搬送に同行することで、出動要請がかかってから、救急車に乗り込み、現場に到着するまでの短い時間の間に、救護者の事前情報を元に、必要なものの準備、搬送までの打ち合わせを行いながら現場へ向かい、現場での救護、救護してからの情報収集、そして搬送先の決定まで、実際に活動されている姿を見ることが出来、患者さんのスムーズな搬送のために、日夜努力されている姿を目の当たりにして、病院側も、適切なベッドコントロールを行い、救急依頼を断らないようなシステム作りが必要であると感じました。

また、救急隊の方も、当院へ常駐している間に救急患者の受け入れ依頼があった場合には、受け入れの連絡を受けてから、受け入れの準備、受け入れ後の検査の見学を行ってもらっています。

お互いの仕事内容を理解すること、また院内に常駐時や、救急搬送の際に当院の看護師が同行することで顔見知りとなり、患者さんの受け入れ時にも、スムーズな情報伝達が出来ていることを実感しています。

2月の開始当初には、週1回の活動でしたが、10月より週2回に増加しました。

まだまだ、この活動については院内でももっと有意義な活動ができないかと模索している状態ではありますが、この活動により、円滑な救急医療の向上につなげることが出来ると期待しています。





広島市佐伯消防署 五日市救急隊　吉川 洋

平素より救急患者の積極的な受け入れにご協力をいただきありがとうございます。

広島市消防局では、増加傾向にある救急需要に的確に応えるため、救急救命士を中心とした救急隊員の救急医療に関する知識と技術を高めることで救急活動の質の向上と、病院前救護における救急救命体制の充実強化、消防機関と医療機関の連携強化を目的として、病院派遣型救急ワークステーション（以下「WS」という。）を実施しています。

これまで、広島大学病院、広島赤十字原爆病院、安佐市民病院、マツダ病院において実施していましたが、本年２月から、新たに五日市記念病院様のご協力をいただきWSを開始することとなりましたので、WSの概要等についてご紹介させていただきます。

五日市記念病院へのWSは、佐伯消防署の五日市、海老園、八幡、石内、湯来各救急隊の他、西消防署の井口救急隊のうち1隊が毎週月曜日と木曜日に実施しています。

実施内容としては救急搬送された傷病者の各種検査、処置の見学や補助のほか、手術の見学なども行っています。また、実際の救急出動に看護師が同乗して、救急隊と看護師の連携活動も行っています。双方の現場を垣間見ることで、相互理解が進むことを期待しています。

WSの具体的なメリットは、

- **救急搬送した患者について病院内での経過を見ることができることです。**

救急隊は救急搬送を行った後は、病院から引き揚げるため、どのような処置や検査が行われたのかを知る機会が少なく、患者の診断や転帰を知る機会は重要です。WSでの経験が、私たちの現場での病態判断能力の向上と、適切なトリアージや搬送先の選定に繋がっていくものと期待しています。脳外科の手術見学では、脳卒中疑いで搬送された患者の血管内カテーテル手術見学を行いました。様々なスタッフが連携して、迅速に手術が進められていく様子を見て、チーム医療の重要性を感じるとともに、救急隊の適切な病院選定が重要であると改めて感じました。

- **静脈路確保の機会があることです。**

救急救命士は心肺停止、各種ショック（心原性を除く）、低血糖の患者に限定して静脈路確保など救急救命処置を行うことができますが、出動での静脈路確保の機会は少なく、成功率の向上が課題となっています。病院実習で静脈路確保の経験を数多く積むことで、課題の解消に繋がることを期待しています。

地域住民の救急や医療に対する切なるニーズと期待を感じるケースが多々あり、我々がこんなに必要とされているのだと改めて感じます。我々の使命は地域住民の命を救うことであり、そのためには地域の救急病院との連携が欠かせません。今後もWSを始め、相互連携を図り地域住民のために貢献していきたいと思います。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。



五日市TOPICS

訪問診療開始について

訪問診療プロジェクトリーダー
理学療法士　中川 敬久

2023年11月より、五日市記念病院において訪問診療を開始いたしました。

厚生労働省は2014年の診療報酬改定で「ときどき入院、ほぼ在宅」を掲げており、地域包括ケアシステム構築のために在宅医療の需要は高まっています。地域包括ケアの目的は、「住まい」「医療」「介護」「介護予防」「生活支援」の5つのサービスを地域内で提供することで、高齢者が住み慣れた場所を離れることなく、尊厳を保ちながら自立生活を続けられるようにすることです。五日市記念病院においても、2023年2月から訪問看護ステーションを開設し訪問看護を行うことが可能となり、臨床栄養科は「在宅訪問栄養食事指導」や「短期集中予防支援訪問サービス」による在宅での栄養指導を提供しております。また、以前より廿日市記念病院では通所リハビリ・訪問リハビリを行う等、地域包括ケアシステムの一端を担いながら在宅医療を推進してきました。

この度、その主幹ともいうべき訪問診療を、訪問診療医としてご経験のある室山先生を中心に開始いたしましたので紹介させていただきます。

訪問診療とは

通院が困難で自宅などの居宅での療養を希望する患者さんのために、居宅に伺い診療を行うことをいいます。正確には、急変したときなどに患者さんやご家族の要請を受けてから伺うのが「往診」であるのに対し、計画を立てて、定期的に伺うのが「訪問診療」となります。

訪問診療と往診の違い

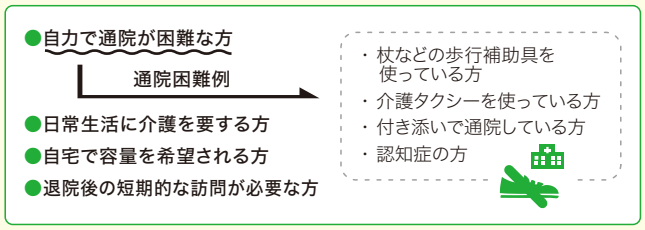
	訪問診療	往診
診療内容	診察・投薬・注射（点滴）・処置・検査・健康管理など	訪問診療と同様
計画性	あり（定期的）	なし（緊急）
診察回数	月1回～（患者さんの状態に応じて）	—
24時間対応	あり（緊急時往診含む） ※現状では夜間・休日は救急外来対応	なし
連携	ケアマネ、訪問看護、訪問介護、訪問リハ、訪問服薬指導、訪問栄養指導など	なし

※厚生労働省が定めたルール（保険診療）上の違い

対象となる患者さん

自宅などで療養中であり、1人では通院が困難な方が対象となります。例えば、当院がかかりつけである外来患者さんの病状的に通院が難しくなったケース。また、ご家族自身が通院の付き添いが難しくなったケースも該当します。他には、入院患者さんが退院後に医療的なケアが必要なケース（短期的な対応含む）も対象となります。

対象となる方



当法人の訪問診療提供について

・医療保険・介護保険利用のいずれの方も対象。
・対象エリアは、広島市佐伯区及び廿日市市東部で当院より、5km程度の圏内にお住まいの方が対象。
・診療回数は患者さんの状態によるが、月2回程度の診療が必要なケースが多い。
・訪問診療及び往診等の対応は、平日日勤帯での対応。
※夜間・休日については、これまで通り時間外の救急外来の受診をお願い致します。

訪問診療開始までの基本的な流れ

訪問診療のご希望や必要性がある患者さんがおられましたら、入院患者さんであればこれまでの退院調整と同様に各病棟の地域医療連携室の相談員の方と調整しながら進めていただければと思います。また、外来患者さんや院外からの問い合わせについては、在宅診療支援センターが担当窓口として対応致しますので、ご相談下さい。

訪問診療までの流れ

ご依頼・ご相談	ご連絡はご本人、ご家族、ケアマネ、相談員など、どなた様からでもお待ちしております。
ヒアリング	現在の状況やご希望、お悩みやご不明点等をお伺いします。
ご説明・お申し込み	当院スタッフが診療内容や費用のご説明、訪問診療開始について同意の確認を致します。
初回訪問	患者さんのもとに医師が訪問し診察を行います。

最後になりますが、今回、訪問診療の立ち上げ業務に関わらせていただいております中川です。これまで準備を進める中で、室山先生をはじめ多くの方々のご指導、ご協力をいただくことで何とか訪問診療が行える体制を整えることが出来ました。今後も、当法人における訪問診療が、法人の理念である「社会に望まれる医療」につながるように取り組んで参りたいと思います。引き続き、よろしくお願い致します。

五日市TOPICS

五日市記念病院の病棟再編について



事務部長　青木 昭雄

当院がある広島市佐伯区は人口約14万人を擁していますが、外科・内科系両方の救急を受け入れることができる医療機関は数少なく、さらなる高齢化に伴う救急需要の伸びに対応するため、2020年4月から医師・看護師を中心とした様々な職種のスタッフを増強しながら、順次、急性期機能を強化しています。

2020年3月時点	2024年1月時点
急性期一般病床　60床 （7:1）	脳卒中ケアユニット　6床 （3:1）
回復期リハビリ病床　80床 （15:1）	急性期一般病床　74床 （7:1）
療養病床　40床 （20:1）	地域包括ケア病床　27床 （7:1）
常勤医師：11名 看護師：112名 職員計：267名	回復期リハビリ病床　73床 （13:1）
	常勤医師：18名 看護師：133名 職員計：325名

※（　）内の数値は診療報酬上の施設基準にかかる看護単位で、数値が小さいほど患者に対する看護師の割合が多くなる。
また、当院の地域包括ケア病床は、急性期一般病棟に併設されているため、看護単位が同一扱いとなる。

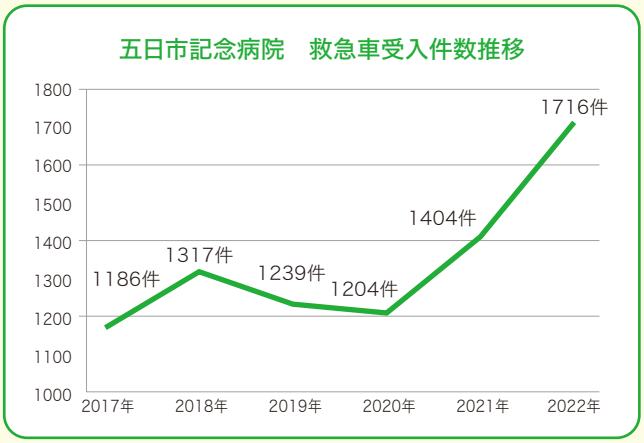
2020年3月以前は、医療法上の一般病床60床・療養病床120床の計180床でしたが、現在は、療養病床をすべて一般病床に転換し、一般病床180床となりました。

そのうち、高度急性期医療を担う脳卒中ケアユニット（SCU）が6床、その他急性期医療を担う病床が74床（そのうち、白血病などの血液疾患の治療を行う無菌治療室が19床）、急性期治療後や在宅療養が難しくなった方の在宅復帰支援を行う地域包括ケア病床が27床、脳卒中後や手術・肺炎治療後などに対してリハビリテーションを集中的に行う回復期リハビリテーション病床が73床の計180床で運営しています。

2020年4月当時は、新型コロナウイルス感染症が日本でも蔓延し始め緊急事態宣言が発令された時期で、救急を含めた医療需要が急速に縮小しましたが、パンデミックが長期化するに従い医療及び救急需要が徐々に回復するとともに、新型コロナウイルス感染者の増加に伴った感染症の患者への対応が増加し、急性期医療がひっ迫していきました。

当院も行政からの依頼に応じて、コロナ即応病床を設置していましたが、コロナ感染症が2類相当から5類に引き下げられ、当院も昨年10月で運用を停止しました。

その間、救急車受入件数も2020年の1204件から2022年の1716件と救急受入件数が42.5%も増加し、急性期病床が満床の為受け入れできない状況が発生し、受け入れ態勢の整備が必要となってきました。



昨年2月には広島市消防局と連携し、救急ワークステーションが院内に定期的に設置され、さらに10月からは、平日日中の常時整形外科診療体制を整備し軽度な外傷への対応も可能となり、今後ますます救急需要が増加していくと予想されます。

国の方針としては、急性期病床を削減し回復期病床に転換させようとしています。また、広島県においては広島駅北側に急性期を集約した巨大病院の構想を進めており、当院を含めた中小の急性期病院が生き抜くのには厳しい状況になっています。

佐伯区を中心とした地域の実情を鑑み、廿日市記念病院を含めた地域の医療機関との連携をさらに強化しつつ、医療機能をさらに充実させながら急性期病床を増強していくよう取り組んでいく予定です。

地域の皆様方におかれましては、今後とも引き続き、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

廿日市TOPICS

廿日市記念病院通所・訪問リハビリテーションの紹介

リハビリ技術科 理学療法士　中倉 慶太

当院は、回復期リハビリと緩和ケア（ホスピス）を中心に「QOLを大切にした総合リハビリ病院」として地域に根ざした医療・介護サービスをめざしております。通所リハビリは、午前中のみの短時間のサービスで、セラピストによる個別リハビリや運動に重点をおいています。訪問リハビリは、外出が困難な方々のために自宅に伺って、歩行や自宅内の生活動作に対し介入するサービスです。

病院の外来でリハビリ（医療）を利用されておられる方が、要介護認定を受けた後も継続して当院でのリハビリ（介護保険）をご希望される場合も、担当スタッフがこれまでの外来スタッフと連携するため、円滑にサービスを開始することが可能です。また入院をされた方が退院後の在宅生活支援のためのリハビリを行う場合においても、病棟でも勤務しているセラピストを配置していますので安心して利用頂けます。通所・訪問兼務のスタッフが入院中に介入する事で、患者さんの状態を随時確認することが出来、必要に応じて退院前に行うサービス調整会議にも参加し、ケアマネージャーと具体的な調整を行うなど、退院後の介護保険サービスの利用・再開を円滑におこなう事が可能となっております。

当院は、総合リハビリ病院として、医師や看護師、地域医療連携室・医療相談室のソーシャルワーカー等の多職種連携のもと、様々な状況に対応出来るようサービスの構築に力を入れています。病院に併設しているからこそ出来る安心を、介護保険のサービスにおいても提供出来るように心がけています。

今後ますます少子高齢化が進むなか、住み慣れた地域での生活を【住まい・医療・介護・予防・生活支援】にて支えていく「地域包括ケアシステム」の構築は、ますます重要となっていきます。多様なニーズに対応出来る【社会に望まれる医療機関】として、同法人の五日市記念病院の在宅支援【訪問診療・訪問看護】との密な連携のもと、さらなる魅力あるサービス作りに努力をしたいと思います。

現在、病院のSNS（インスタグラムやフェイスブック）にて、プログラムや職員研修など、当医院の【今】を知っていただける情報をタイムリーに発信をしています。ホームページからもご覧頂けますので、是非一度ご覧下さい！



通所リハビリテーションの紹介

利用定員　40名

利用時間　8:30～12:30（3～4時間、1～2時間の利用が可能）

特徴

■個別リハビリ

理学療法士・作業療法士がそれぞれ必要な個別リハビリを提供します。個別リハビリでは、パワーリハビリだけではできない、効率の良い体の使い方の練習、自宅環境を想定した日常生活動作や作業活動の練習、言語機能・嚥下機能の維持・改善を図る介入など、個別性のあるリハビリを行います。

■電気治療機器を利用したリハビリ

L300Go、ESPURGEなど、電気治療機器を使用し、歩行能力向上や上肢機能改善、疼痛緩和などを図ります。

L300Goとは　「歩行神経電気刺激装置」であり、脳卒中などによる神経損傷による尖足・下垂足などに伴う歩行障害に対し使用し、歩行能力の向上を図ります。

ESPURGE（エスパージ）とは　低周波電気刺激により、痛みの緩和・筋力の増強・治癒の促進などの効果が期待出来ます。

■パワーリハビリ・自転車

パワーリハビリ機器や自転車での運動で体を鍛える事が出来ます。

■集団体操

脚の体操、腕の体操、口の体操などを織り交ぜて、全身の運動を行います。

■自主練習

個人の目標に合わせてリハビリスタッフが提案・調整し、練習の実行をリハビリ助手などのスタッフがサポートします。

■アニマルセラピー

セラピー犬の「ふたば」（ゴールデンレトリーバー）が、癒やしの提供、触れ合いを行い、身体面・精神面への効果が期待出来ます。

▼ 電気治療機器を利用したリハビリ



▼ パワーリハビリ・自転車



▼ 集団体操



▼ アニマルセラピー



訪問リハビリテーションの紹介

利用時間　13:00～17:00

提供エリア　廿日市記念病院より概ね20分圏内（圏外も相談に乗ります）

特徴

■理学療法士・作業療法士が配属しており、必要性に応じた療法士がリハビリを行います。

■外出が困難な方でも、自宅にてリハビリの提供が出来ます。

■自宅周辺での歩行練習や近隣への買い物など、現地での実践的な練習が出来ます。

■自宅での入浴などの生活動作や、調理・庭作業などの生活関連動作の練習が出来ます。

■携帯式電気治療機器（ESPURGEなど）を使用した療法の実施が可能です。

廿日市TOPICS

清風会病院に「HONDAセーフティ・ナビ」が揃い踏み



リハビリ技術科 作業療法士　佐々田 由喜

廿日市記念病院では、今年の4月にHONDAセーフティ・ナビ（ドライビングシミュレーター　以下：DS）を導入し、5月より本格運用を開始しています。五日市記念病院では2020年から同機が導入されているため、両院で同様の運転支援が可能になりました。

実際にDSを使用した感想を述べさせて頂きます。今までは運転に係る神経心理学検査を実施し、判断に迷う場合は実車評価を行っていました。しかし、実車評価は準備を含め、合計4時間から5時間程度の時間を要す事に加え、診療報酬の算定項目にあたらないため、法人としては完全なサービスで実車評価を実施していました。さらに、1回の実車評価で実費負担を患者さんに強いており、双方に時間的な面や費用面での負担がかかるため、継続した評価、訓練を提案し難い事がデメリットでした。対して、DSは患者さんの症状に合わせた細かいコース設定が可能で、難易度を調整する事が出来ます。それにより、苦手な部分を反復して練習する事が可能となりました。また、実車評価と異なり、事故を起こしても実害が無いため、リスクはありません。DSの具体的な設定として、高速道路、市街地、山岳コースなどのシーンを選択でき、雪、雨、霧などの細かい天候設定が可能です。また、レーシングゲームやキッズ向けのコースもあるため、運転再開を目指していない方も楽しめるよう工夫されています。さらに、運転の傾向をデータで閲覧する事が可能なため、客観的に本人・ご家族に運転の傾向を説明する事ができる事も強みの一つです。また、身体機能面においては、右片麻痺の場合は左アクセルブレーキでの練習が可能であり、脊髄損傷にて下半身不随がある方向けに手動運転補助装置が付属しているため、幅広い方にご利用頂けます。

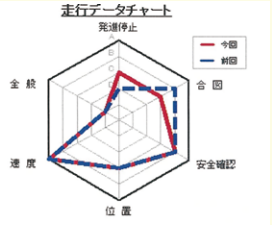


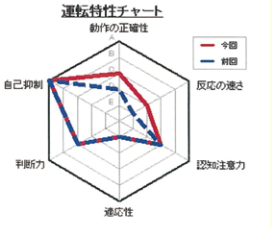
実際に私自身が対応した事例を紹介します。その方は神経心理学的検査をクリアし、DSでの運転スクリーニング検査結果が境界判定となった事例でした。外来リハビリにてDSを使用した訓練を複数回実施した後、運転スクリーニング検査の再評価を行った結果、最終的に運転再開レベルに改善しました。もちろん、自動車運転は法規やリスクが深く関わっているため、全ての対象者が運転再開に至るわけではありませんが、DSの導入により、客観的なデータを下に双方納得した上で運転再開可否の方向性を決定しやすくなった事を実感します。

昨今、世間を賑わしている加齢や疾患によるアクセルの踏み間違いや服薬管理不十分による痛ましい事故を見るたびに、私たちの役割の重要性に気付かされます。病院の周辺地域は自動車を利用出来ないと不便な地域が大半を占めています。その中で、当院は広島県指定の高次脳機能地域支援センターとして運転支援を継続する事が、安全な交通社会への貢献に繋がると考えます。そして、法人の理念である「社会に望まれる医療」に繋がると信じ、これからもDSを最大限に活用して参ります。

■走行データ

項目	区分	結果	評価
発進停止	急発進操作	0 回	C
	停止線・踏切・赤信号での不停止	3 回	
	急ブレーキ操作	0 回	
	駐車の仕方（指定場所駐車）	○	
合図	合図（ウインカー）なし	5 回	C
	合図方向違い	0 回	
安全確認	後方確認不適	2 回	B
	左右確認不適	- 回	
	前方危険車両等の見落とし	2 回	
	信号、標識、標示等の見落とし	3 回	
位置	停止位置不適	2 回	C
	走行車線不適	0 回	
	車間距離、側方間隔不適	2 回	
	車線のはみ出し	1 回	
速度	速度超過割合	0.1 %	A
	速度超過分の平均速度	5.1 km/h	
	右左折時の交差点内平均速度	14.2 km/h	
全般	進路間違い<指示看板見過ごし>	1 回 <有>	E
	ヒヤリハット（衝突寸前）	2 回	
	事故発生	1 回	





HONDAセーフティ・ナビサマリーの抜粋

タレント 森本 久美子さん講演会『AYA世代のがんサバイバーが医療者に伝えたいこと』

看護部長　高橋 直美



2023（令和5）年11月29日にタレントの森本 久美子さんをお招きして、『AYA世代のがんサバイバーが医療者に伝えたいこと』をテーマにご講演いただきました。

廿日市記念病院には緩和ケア病棟があり、質の高いエンド・オブ・ライフケアを目指していますが、入院患者の多くは高齢者であり、AYA世代のがん患者への対応は経験が少なく、これまでの関わりにおいても課題が多く残っていました。こうした背景を動機として、AYA世代のがん患者さんの想いに寄り添った看護を提供していくために、この度の講演会を企画致しました。



※AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の頭文字をとったもので、主に、思春期（15歳～）から30歳代までの世代を指しています。

森本さん自身がAYA世代でがん宣告を受け、色鮮やかだった世界は色を失い、「死」を覚悟した瞬間から「生きる」ために闘病するなかでの医療者との関わりについて、当時を振り返りながら、患者の立場として私たちに伝えたいことを意見交換も交えながら語って頂きました。ディスカッションのなかでは、「がん検診を若い年齢で受診したことで早期発見につながったこと」「AYA世代のキャンサーロスト（がん罹患によって失ったものや機会）に関して」「入院治療中の医療者とのかかわりを通して、あらためて医療者に望むこと」「医療者とのかかわりで15年経過しても記憶にのこっていること」「意思決定支援について」など、会場からの質問や、日頃抱えている悩みについて真摯に応えて頂きました。森本さんの素敵な笑顔と明るく綺麗な声、そして温かい人柄に参加した職員は一気に魅了されていました。そして、情報を伝えるプロらしく、患者の立場からの率直な意見を心に響く言葉で一言一言、丁寧に、私たち医療者への労いも込めて温かく伝えて下さいました。

参加したスタッフからは、「患者さんの最期に寄り添えるようにできる限りの配慮や、家族との関係性を密にしていくことを意識していきたいと思いました。」「同じ世代の方の思いを知ることができ、胸が熱くなりました。モリクミさんのご助言を受け、すぐにがん検診を申し込みました。」「患者さんだけでなく、家族への声かけの大切さも再認識出来ました。」といった感想が聞かれました。

この度の講演会は、自身の健康についても考える機会となりました。また、日頃抱えている悩みを打ち明け、心に溜まっていた不安やもやもやを涙として流し、そしてみんなで共感し笑うことで、リフレクションにもなったように感じます。参加した医療者のメンタルセラピーとして、心のケアにも繋がる講演会となりました。



01 清風TOPICS

第10回 清風会芸術奨励作品展

社会医療法人　清風会（五日市記念病院・廿日市記念病院）は、2013（平成25）年より、毎年芸術文化教育の振興と芸術作品の展示を通じた療養環境の向上を目的に、広島市立大学芸術学部の学生・卒業生の作品展示会を開催しておりますが、新型コロナウィルス感染拡大のため、2020年から3年間は外来・入院患者さんに限定して開催するなど、思うような展示会とはなりませんでした。

今回は、4年ぶりに外部の方々にもご来場いただき、意欲的に制作活動に励む若い作家の作品を多くの皆様にご鑑賞いただくことが出来ました。

展示作品の中から優秀作品を選出して購入し、五日市・廿日市記念病院へ展示させていただいております。現在は、両病院で合計41の作品を展示しておりますので、ご来院の際は、是非ご鑑賞いただければと思います。

今後もこの『清風会芸術奨励作品展』を継続し、芸術文化教育の振興と療養環境の向上に努めて参りたいと考えております。



出展：広島市立大学　芸術学部
会期：2023年11月13日（月）～17日（金）
会場：五日市記念病院　新館1階　第3待合室
主催：社会医療法人　清風会

展示作品（芸術奨励賞）
全11点
社会医療法人　清風会

金賞	銀賞	銅賞
 濡白羽 蔡 茹夢	 水鏡の嵐山 渡辺 冴南	 七宝氷紋大皿 粟根 誠一郎
 サボテン LIUYUFAN	 102 雉子谷 佳宏	 エネルギーの痕跡 山裾 文香	 蛙憶 吉川 由夏
 キ麟 宇都宮 朱里	 P.P.E05_MidK_×8 可塑仮晶　呉鐵流離 佐野 翠	 ゆら 岩本 依蕗	 ヤギ 古藤 未来

社会医療法人清風会 第6期の
決算状況について

はじめに

2023年11月、「2023年度 病院経営定期調査」（日本病院会 他2団体共同調査）において、おおよそ7割もの病院が赤字との集計結果が公表されました。新型コロナ感染拡大の影響による収益環境の悪化、物価上昇の影響を受けて、人件費をはじめ材料費や経費など医業費用の増加が続き、病院経営を大きく圧迫した結果となりました。

当法人も例外ではなく新型コロナ感染症の対策を継続しながらも、急性期機能拡充を目的とした人員体制の整備に取り組む一方で、エネルギー価格をはじめ多岐にわたる物価上昇が費用の増加につながった厳しい1年となりました。

このような状況下ではありましたが、当法人第6期は入院患者数の増加が収益に大きく貢献したものの、費用が大きく増加した影響から、前期（第5期）並みの業績となりました。

第6期（2022（令和4）年7月～2023（令和5）年6月）の決算状況について

【この表は、医業収益を100とした構成比を表示しています】

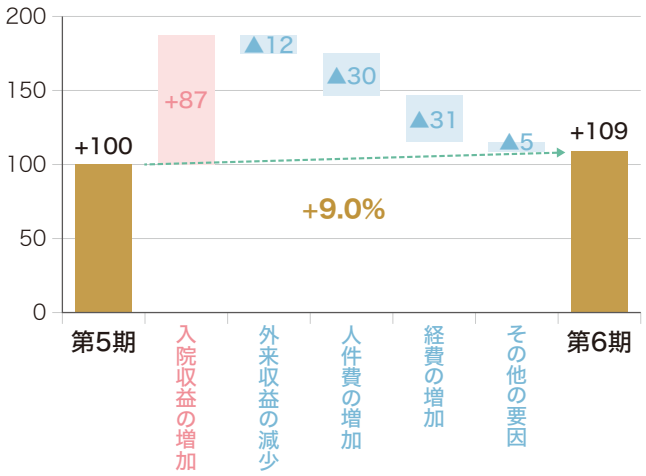
（単位：%）

項　目	第5期 実績	第6期 実績			第6期 予想	第7期 予想
	清風会	五日市記念病院（一般病院）	廿日市記念病院（療養型病院）	清風会	清風会	清風会
医業収益	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
医業費用	93.6	93.5	96.0	94.2	93.7	95.9
材料費	21.1	26.4	8.0	21.4	20.1	21.2
人件費	51.3	48.0	58.9	51.0	53.8	54.8
経費	9.0	7.9	11.6	8.9	8.5	9.2
委託費	4.9	4.4	7.4	5.2	4.9	5.0
減価償却費①	4.6	5.1	5.4	5.2	4.3	4.9
本部費	2.8	1.7	4.7	2.5	2.1	0.8
医業利益	6.4	6.5	4.0	5.8	6.3	4.1
医業外収益	1.7	1.9	1.3	1.7	0.1	0.1
医業外費用	1.1	0.8	0.9	0.8	1.2	0.7
経常利益②	6.9	7.6	4.3	6.7	5.2	3.5
可処分所得（③≒①+②）	11.6	12.7	9.7	11.9	9.5	8.4
借入金及び割賦返済④	4.0	4.0	4.6	4.1	4.4	4.2
支払後可処分所得（③－④）	7.6	8.7	5.1	7.8	5.1	4.2
外来患者数（人/日）	153.0	126.5	29.1	155.6	147.0	154.0
入院患者数（人/日）	252.7	160.7	106.8	267.5	250.3	268.1

※1 会計処理は病院会計準則に準じています。
※2 五日市記念病院及び廿日市記念病院は、医薬分業を実施しています。
※3 本来人件費である清掃委託費は、委託費に含めています。

清風会全体の支払後可処分所得（収支）

支払後可処分所得の変化



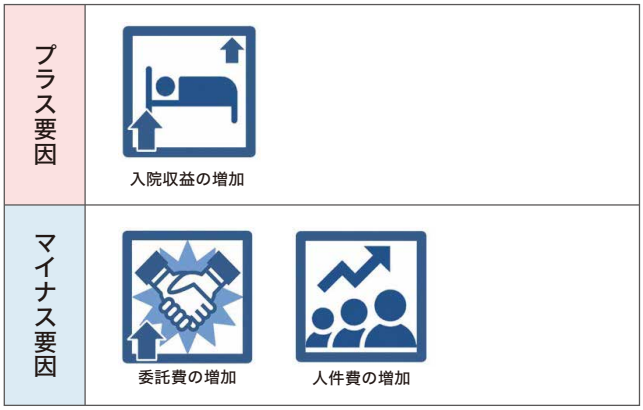
清風会全体の収支は、「入院収益の増加」が大きなプラス要因に、「人件費や経費の増加」が主なマイナス要因となりました。人件費をはじめ物価上昇の影響による医業費用の増加傾向が続くなか、医業収益の増加が医業費用を上回った結果、最終的な**支払後可処分所得は前期に比べ9.0%の増加**となりました。

また、支払後可処分所得の増減要因を各病院別にまとめてみますと右図の様になります。

五日市記念病院の支払後可処分所得の増減要因について

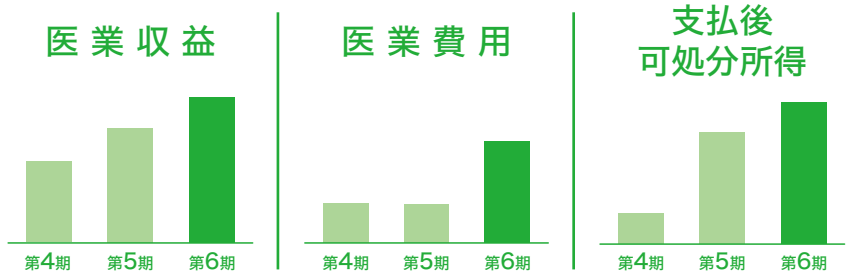


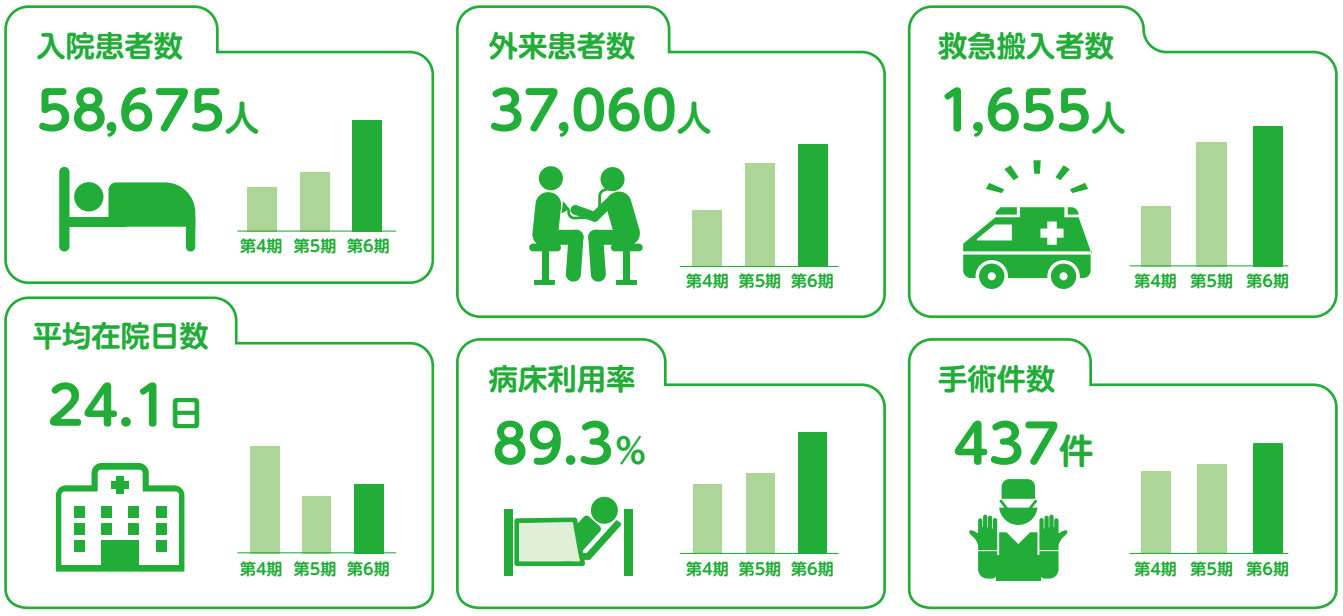
廿日市記念病院の支払後可処分所得の増減要因について



一目で分かる 五日市記念病院

（一般病院・180床）





社会医療法人第7期(2023(令和5)年7月～2024(令和6)年6月)の収支予想について

五日市記念病院では、救急医療に力を入れ急性期を中心に回復期並びに地域包括ケアまでの入院機能を充実させていきます。更に今期は「訪問診療」を開始し、訪問看護と併せて当院退院後の患者さんが住み慣れた自宅で安心して生活ができるよう在宅医療の充実を図っていきます。

廿日市記念病院は、従来通り緩和ケアを併設した総合リハビリテーション病院として、地域の医療機関との連携強化を推進し、介護分野においては医療のアフターケアとして通所及び訪問リハビリテーションに注力します。

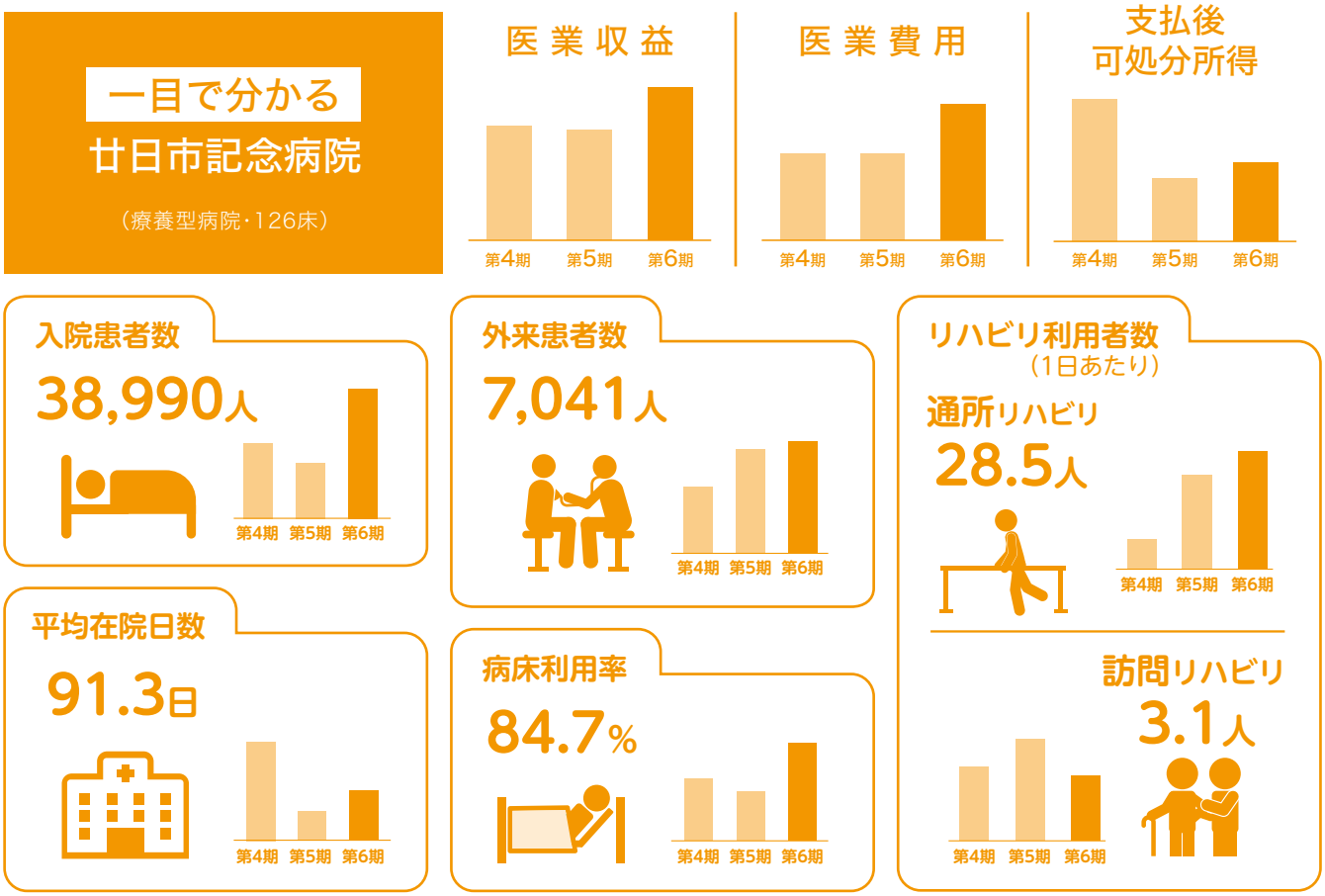
これまで五日市記念病院において3T-MRIを設置するための増築計画の進展を図ってきましたが、建築費の高騰等により無期限延期となりました。これを受け両院のMRI更新計画を変更し、今期中に廿日市記念病院の1.5T-MRIを最新機種に更新する予定です。五日市記念病院との検査連携を効率的に行い、両院のMRIを有効活用していきます。

法人経営において、最も懸念されるのが物価上昇による経費の増大です。医療機関の収入は診療報酬で規定されており一般企業のように価格転嫁ができず、あらゆる商品やサービス価格の値上がりが病院経営に与える影響は深刻です。また、新型コロナ感染症が2類から5類相当へ緩和されコロナ特例加算や関連補助金が終了する中、感染対策を継続しながら安定的な医療提供体制を確保するなど厳しい経営が見込まれます。このように先行きの見通しが不透明なことから、**法人全体の収支予想は、医業収益に対する支払後可処分所得の比率が+4.2%前後になると予想しています。**

おわりに

中小の民間病院を取り巻く経営環境は、「地域医療構想に基づく機能分化への対応」や「働き方改革による生産性向上」と「人材の確保」、「診療・介護報酬の同時改定」が控えるなど様々な経営課題に直面する厳しい状況ですが、良質な医療は健全な経営から生まれるとの基本的な考えの下、将来を見据えた法人運営を企画していきます。

社会医療法人清風会は、五日市記念病院と廿日市記念病院を一体と考えた"清風会病院"の概念の下、地域に望まれる病院づくりを続けていきます。職員の皆さんの理解と協力をお願いします。



五日市記念病院 地域医療連携室からのご紹介

診療体制の充実と病棟編成で、より救急患者を受けられる体制を整えました。

2023年7月から新しく
地域医療連携室長になりました、
看護師の大田成実です。
よろしくお願いいたします。



平素より当院の地域医療連携業務にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

2023(令和5)年7月より、地域医療連携室の室長を大田成実に交代いたしました。遅くなりましたがこの紙面を借りてご報告させていただきます。外来・病棟看護とは異なる業務内容に戸惑いと学びの連続ですが、スタッフに支えられながら日々研鑽に努めております。

2023年4月に、脳神経外科 宮崎裕子先生、8月に糖尿病内科 斎藤雅之先生、10月には整形外科 川西啓生先生、井上博幸先生が入職され、診療体制を充実し、また、11月には病棟編成を行い、より救急患者を受けられる体制を整えました。

地域医療連携室として皆様の要望に少しでも応えるべく、これまで以上に、ひとつひとつの連携を大切にしながら、医療機関や介護施設、行政機関の方々とともに、地域の皆様とつながっていきたいと考えております。医療連携をスムーズに運べるよう、連携室スタッフ一同励んで参りますので、引き続きのご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。





五日市記念病院 連絡先(代表)TEL:082-924-2211 FAX:082-924-8111 e-mail:msw@seifu.net
(直通)TEL:082-924-2343 FAX:082-924-2215

廿日市記念病院 連絡先(代表)TEL:0829-20-2300 FAX:0829-20-2301 e-mail:msw@seifu.or.jp
(直通)TEL:0829-20-2750 FAX:0829-20-2777

廿日市記念病院のご案内

心を重視したホスピスと総合リハビリテーション病院

所在地 廿日市市陽光台五丁目12番　TEL：0829－20－2300

診療科目 脳神経外科、内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、リハビリテーション科、整形外科

総病床数 126床（回復期リハビリ病棟60床、療養病棟42床、緩和ケア病棟24床）

外来診療時間 午前9時～午後1時（受付時間：午前8時30分～午後12時30分）

休診日 土曜日・日曜日・祝日、8月15日、年末年始（12/30～1/3）

最新の外来受診のスケジュールはこちらから

●外来診療スケジュール並びに担当医師

（2024（令和6）年1月1日現在）

		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
午前	脳神経外科	茶木 梶原	浅野	浅野 茶木	國吉 梶原※1	浅野
	内科		池本	小原	小原	
	循環器内科		免出※2			
	呼吸器内科	中川				川本
	外科				髙橋	
	整形外科					井上※3
午後	緩和ケア外来※4	交替制※5	小原	交替制※5	交替制※5	小原

※1 第2木曜日のみ診療となります。 ※2 火曜日の循環器内科の診療は、10時からとなります。 ※3 金曜日の整形外科の受付は、12時まで（初めての方は11時30分まで）となります。 ※4 緩和ケア外来は完全予約制で、緩和ケア病棟入院の為の診療を行っています。 ※5 担当医は交替制です。

診療担当医師のご紹介

脳神経外科

院長　茶木（ちゃき）隆寛（昭和58年愛媛大学卒）
病院相談役（前院長）　浅野　拓（昭和48年岡山大学卒）
國吉　毅（昭和61年香川大学卒）
髙柿尚始（平成14年広島大学卒）
梶原四郎（昭和47年広島大学卒）※

外科

吉屋智晴（平成14年広島大学卒）
髙橋　元（平成20年広島大学卒）

整形外科

井上博幸（昭和54年愛知医科大学卒）※

内科

緩和ケア病棟施設長　小原弘之（平成3年山口大学卒）
池本珠莉（平成24年広島大学卒）※

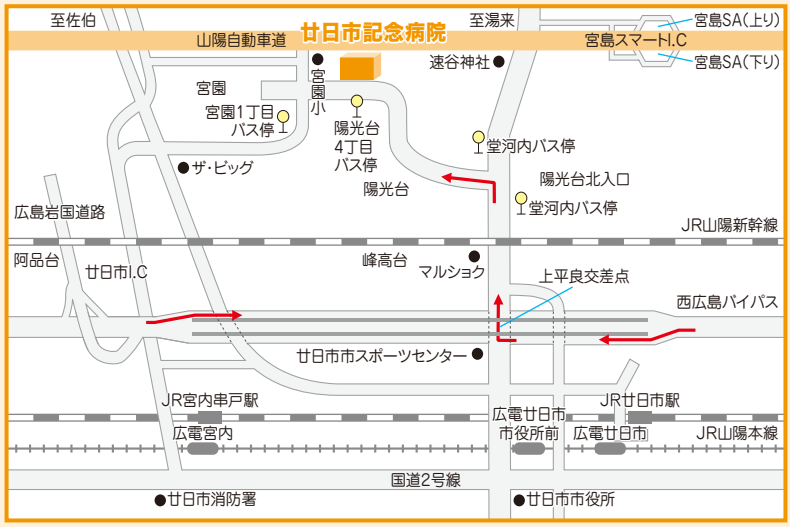
循環器内科

免出　朗（平成11年山梨大学卒）※

呼吸器内科

中川三沙（平成15年広島大学卒）※
川本数真（平成28年近畿大学卒）※

※印：非常勤医師　（2024（令和6）年1月1日現在）



アクセス

自家用車

来院者用駐車場62台（無料）
JR宮内串戸駅または広電宮内駅より10分

公共交通機関

●JR宮内串戸駅よりバス

さくらバス（宮内ルート）
陽光台4丁目バス停下車、徒歩1分

広電バス 宮園・四季が丘線
陽光台4丁目バス停下車、徒歩1分
宮園1丁目バス停下車、徒歩10分

●広電廿日市市役所前駅よりバス

さくらバス（宮内ルート/阿品台ルート）
陽光台4丁目バス停下車、徒歩1分

広電バス 宮園・四季が丘線
陽光台4丁目バス停下車、徒歩1分
宮園1丁目バス停下車、徒歩10分

五日市記念病院のご案内

一次脳卒中センター（PSC）※

脳神経外科を中心に全身管理のできる急性期救急病院

所在地　広島市佐伯区倉重一丁目95番地　TEL：082－924－2211

診療科目　脳神経外科、血液内科、内科、循環器内科、糖尿病内科、消化器・内視鏡外科、整形外科、心臓血管外科、リハビリテーション科、脳ドック・血管ドック

総病床数　180床（急性期一般病床80床（内SCU6床）、地域包括ケア病床27床、回復期リハビリ病棟73床）

外来診療時間　午前9時～午後1時（受付時間：午前8時30分～午後12時30分）
午後2時30分～午後5時30分（受付時間：午後2時～午後5時）

休診日　土曜日午後・日曜日・祝日、8月15日、年末年始（12/29午後、12/30～1/3、1/4午後）
但し、12/31～1/3までは年末年始定点診療を実施

最新の外来受診のご案内はこちらから

●外来診療スケジュール並びに担当医師

（2024（令和6）年1月1日現在）

		月曜		火曜		水曜		木曜		金曜		土曜
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
脳神経外科	初診	大庭		宮崎		交替制		宮崎		坂本		第1瀬山（剛）※1 第2·4·5光原 第3交替制
	再診	坪井 梶原（洋）		向田 坪井		國吉 梶原（四）		梶原（洋） 坂本		向田	第1·3 光原	大庭 第2梶原（四）
内科		印具 藤田	黒木※2 土井	黒木 印具	斎藤	土井 印具	黒木	菊地 土井	藤田	黒木 藤田	印具	瀬山（敏） 交替制
循環器内科		湯谷		湯谷 林		免出		免出		湯谷		交替制
血液内科		許		許		許		許		許		許
糖尿病内科						斎藤				斎藤		
消化器・内視鏡外科			内田※3						内田			
整形外科		井上	井上	川西	川西	川西	平松	井上	井上		井上	
心臓血管外科									第3古川			
脳ドック				印具			梶原（四） 印具	検査日		検査日		
血管ドック				林 印具				検査日				

※1 第1土曜日午前、瀬山（剛）は機能脳外科外来を行っています。
※2 月曜日午後、黒木にて癒し外来を行っています。　※3 胆石・ヘルニア外来を行っています。

脳神経外科初診外来





※五日市記念病院は、2019（令和元）年9月1日、日本脳卒中学会より、「一次脳卒中センター（PSC）」の認定を受けました。

アクセス

自家用車

来院者用駐車場141台（無料）
JR五日市駅より10分

公共交通機関

●JR五日市駅北口よりバス
（薬師が丘、彩が丘団地、藤の木団地行き）
地毛（じげ）バス停下車、徒歩5分

●広島電鉄楽々園駅よりバス（湯来温泉行き）
地毛（じげ）バス停下車、徒歩5分

●広島バスセンターよりバス
（東観音台、薬師が丘、彩が丘団地、藤の木団地行き）
地毛（じげ）バス停下車、徒歩5分

●広島バスセンターよりバス（四季が丘、阿品台行き）
波出石（はでいし）バス停下車、徒歩3分

法人の理念

私たちは『医療は仁術』であり、
『病院はサービス業』であることを忘れず、
『社会に望まれる医療』の実現を目指して、
より良質で、温かく心の通った医療を提供します。

□私たちは、患者さまを守ります
□私たちは、思いやりを大切にします
□私たちは、誠実な医療を目指します
□患者さまには人格の尊重を、
病気に対しては厳しい目をもって
より良い医療を目指します

年間行事

2023(令和5)年7月～2024(令和6)年1月

7月	1日	清風会　開設記念日　　五日市記念病院　開院記念日
	7日	清風会法人内学会
	15日	夏季賞与　支給
10月	20日	廿日市記念病院　院内研修会　講師:村山医療センター　大石 英人先生 「経皮経食道胃管挿入術(PTEG)の有効性と管理のコツ(適応、造設、管理)」
	21日	廿日市記念病院　オープンホスピス
11月	1日	五日市記念病院　病棟編成(一般80床・地域包括ケア27床・回復期リハ73床)
	29日	廿日市記念病院　院内講演会　講師:タレント　森本 久美子氏 「AYA世代のがんサバイバーが医療者に伝えたいこと」
12月	9日	清風会　法人忘年会
	12月31日～1月3日	佐伯区医師会定点診療(広島市年末年始救急医療協力病院・五日市記念病院)

編集後記

昨年末、大谷翔平の移籍先がロサンゼルスドジャースへ決まりしたが、契約金「10年7億ドル(約1,014億円)」年俸で約100億円とこれまで聞いた事がない規格外の契約額です。下世話な話ですが、月給で約8.4億円、日給で約2,800万円、時給で約116万円！深く考えたら頭がくらくらします。今年は新天地での「大谷ショウタイム」を観るのが楽しみです。

(管理本部 医療連携・渉外部門　塚本 修久)

昨年は4年ぶりに法人の忘年会が開催されました。私は入職して初めての参加でしたが、普段あまり交流のない廿日市職員の方とお話ししたり、外国人技能実習生のみなさんが母国の踊りを披露してくれたり、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。今年も開催される事を楽しみにしています。

(五日市記念病院 事務部 庶務課　藤岡 恵美)

私たちの出来る事、どのようなスタッフが在籍し、どのような取り組みをおこなっているかという事をタイムリーにお伝えする事も、医療機関にとって大切な取り組みだと認識しています。SNSを活用した動画での取り組み報告もおこなっていますので、是非一度ご覧下さい。

(廿日市記念病院 庶務課　梅田 晶)

社会医療法人
清風会
第72号 2024年1月1日

管理本部
〒731-5156
広島市佐伯区倉重1丁目95番地
TEL (082)943-7725
FAX (082)921-0104
URL https://www.seifu.or.jp
E-mail kannri@seifu.net

五日市記念病院
TEL (082)924-2211
FAX (082)924-8111
URL https://www.seifu.or.jp/imh/
E-mail imh@seifu.net

廿日市記念病院
TEL (0829)20-2300
FAX (0829)20-2301
URL https://www.seifu.or.jp/hmh/
E-mail hmh@seifu.or.jp